

令和3年度 (公社)千島連盟通常総会終了!

本年度の通常総会は、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況などを踏まえ、昨年につづき会員からの「委任状・議決権行使書」による決議参加により、最小限の出席者により5月24日に札幌市内で開催され、上程された議案全てが承認されました。

新型コロナウイルスの影響で、昨年から実施のめどが立っていない北方領土ビザなし渡航について、早期再開に努めるよう政府に求める決議が採択されました。

また、千島連盟と北海道は26日、ビザなし渡航の円滑な実施や、島に上陸せずに船上で慰霊祭を行う「洋上慰霊」の実現に向けた支援を求める要望書をそれぞれ内閣府と外務省に提出する予定です。

元島民の高齢化が進むなか、数少ない故郷訪問の機会が失われることは無念の一言に尽きます。新型コロナウイルスが沈静化した後の四島訪問が今まで通り叶うことを期待するばかりです。

北方領土返還要求中標津住民大会開催中止のお知らせ

既にご承知のこととは思いますが、今年の「なかしべつ夏まつり」が新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止となりました。このため、夏まつり初日の開催予定だった「北方領土返還要求住民大会」につきましても、中止とさせていただきますことお知らせ致します。なお、本事業に替わる啓発事業について、現在検討中ですので詳細決定次第お知らせします。



2019年の住民大会の写真

INFORMATION これからの支部啓発事業実施予定

北方領土返還要求パネル展の開催

北方領土返還要求強調月間(8月1日～31日)啓発事業として、北方領土パネル展を中標津総合文化会館(しるべつ) 町民ホールで8月1日～13日まで開催致します。

千島連盟が新しく作成したカラー写真パネルを展示致しますので故郷を懐かしんで頂ければ幸いです。



北方領土ネット検定の実施

(公社)千島歯舞諸島居住者連盟主催の支部啓発事業として、北方領土に関する諸問題を広く国民に理解を深めてもらうことを目的とした「北方領土ネット検定」を実施します。

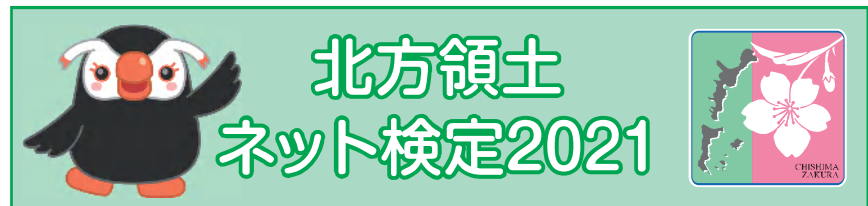
支部青年部のホームページ上でのネットによる回答方式で、初級・中級・上級の3コースを設定。

正解率の高い回答者に「認定証」の授与と各級上位5名の方に景品を贈呈します。

会員の皆さんも是非参加してみたいかがでしょうか。

(URL: <http://kentei.chishima.org/>)

※開催日:8月15日(日)～8月22日(日)



チャレンジして、景品をゲット!!
※詳細はホームページに近日発表!!

釧路新聞「番茶の味」に載りました!

釧路新聞のコラム『番茶の味』に館下雅志支部長が執筆した北方領土返還運動に関する記事が5月23日(日)から29日(土)まで連載されました。

会員の皆さんに是非一読願えればと思い、やや小さめで読みにくいかもしれませんが、一気読みできるよう全7話を本紙面に掲載しますので御覧下さい。

番茶の味 (20717)

北方領土問題

「北方領土を返せ」と叫び戦後76年がすぎ、コロナ禍で返還運動も止まった。母が生まれ育った国後島(古釜布)を見るのに、1993年ビザ無し交流に参加した。この頃より北方領土問題に興味を持ち、返還運動に携わり28年の歳月が過ぎる。毎年毎回、国に早期返還の陳情をしてきたが一向に進展していない。私も元島民76歳。後継者として成果がある返還運動をしてきたと考えると、今元島民の平均年齢は86歳、1万7921人の引揚者は5660人に減少した。元島民から託された故郷の北方領土問題の解決を急がなければならない。時間がない。

館下 雅志

千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部長

〈番茶の味〉今週の執筆者

館下 雅志氏(たてした・まさし) 千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部支部長。1959年中標津町生まれ。92年に機下印刷所代表取締役に就任、3代目として現在に至る。中標津町商工会副会長、前(公社)千島連盟後継者活動委員長、千島連盟根室管内後継者連絡協議会理事として北方領土返還運動に奔走する。62歳。

番茶の味 (20719)

サハリン訪問

2005年度の北方領土相互理解促進対話交流使節団の団員としてユジノサハリンスク・豊原に行った。空港に到着後、ビックリ。「クリルはわれわれの領土」とデモで迎えられた。領土問題に関わるサハリン訪問は初めてであって、マスコミを通じ広報的に周知し、州の指導部や社会・政治グループを日本側に、傾けることに来ていると報道されたからである。州議員との意見交換会では、コサック系議員から北方領土は戦勝品で、われわれから奪いに戦争をしに来たのかという発言には驚いた。とても良い経験をしたサハリン訪問だった。

館下 雅志

千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部長

番茶の味 (20718)

千島桜

中標津の春の訪れは、千島桜の花が咲く。亡くなった母を思いだす。母は北方領土・国後島古釜布で生まれ、14歳まで暮らし2年間はロシア人と混住生活した後、樺太経由で函館に強制送還され、その後根室で生活。強制送還で多くの元島民は、風呂敷包み一つで北海道に戻りその後の生活は大変だったと聞いている。千島桜は北方領土返還運動の花として選ばれ啓発のシンボルとされている。千島桜の桜吹雪が舞い散り、令和の大岡越前が北方領土問題を解決してくれると良いなあ。

館下 雅志

千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部長

番茶の味 (20722)

後継者キャラバン隊

全国の北方領土問題を広めるために、千島連盟後継者が、全道・全国を回る啓発事業「北方領土返還要求後継者キャラバン隊」が平成10年に再開した。根室市を出発し、各市町村に北方領土返還のメッセージ伝達や署名活動をしながら、札幌市で開

館下 雅志

千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部長

番茶の味 (20721)

共住

平成18年から5年間、国後島ロシア人と「共住」をテーマに話した。日ロ双方が文化的・社会的な違いを乗り越え、互いに手を携え協力する社会をつくることの可能性を話し合い、「共住への途」として冊子にまとめることができた。

館下 雅志

千島歯舞諸島居住者連盟中標津支部長